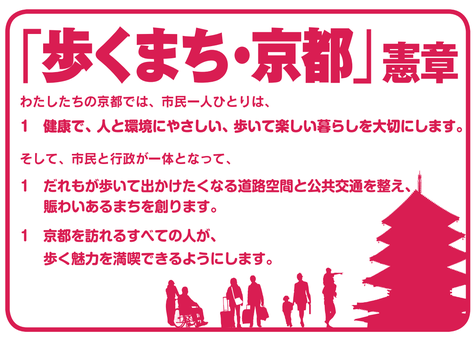
# 中学生を対象とした「歩くまち・京都」学習

井上 了祐・三原 康弘・永田 直也（京都市都市計画局歩くまち京都推進室）
藤井 聡（京都大学大学院工学研究科教授）
水山 光春（京都教育大学名誉教授）
高橋 咲衣・東 徹（一般社団法人システム科学研究所）

## 「歩くまち・京都」憲章の制定




平成22年1月23日、市民・観光客の皆様、そして事業者、行政が一体となって「人が主役の魅力あるまちづくり」を進めるための事柄を明確にするために「歩くまち・京都」憲章を制定

理念実現のための具体的な取組

## 「歩くまち・京都」総合交通戦略の策定

憲章の理念を実現するため、交通まちづくりのマスタープランとして「歩くまち・京都」総合交通戦略を策定　令和3年11月30日には改訂版として「歩くまち・京都」総合交通戦略2021を策定

**非自動車分担率を85%以上に**

**目標を実現するための3つの柱**

- 柱1 持続可能なまちづくりを実現する公共交通ネットワークの形成 ―「公共交通ネットワーク」の取組
- 柱2 誰もが「出かけたくなる」歩行者優先の魅力的なまちづくり ―「まちづくり」の取組
- 柱3 歩いて楽しい暮らしを大切にするスマートなライフスタイルの更なる促進 ―「ライフスタイル」の取組

## モビリティ・マネジメント教育

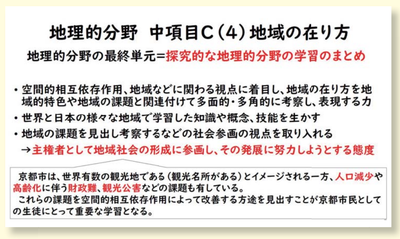
平成24年度に「学校MM検討会」を設置し、「モビリティ・マネジメント教育」の普及に向けて検討を開始。
教員の提案に基づき「学校MM検討会」での議論を通じて、**小学生の発達段階に応じた指導方針・学習指導案・教材**を作成。
令和3年度から中学生を対象に、社会科の授業案を検討・実践

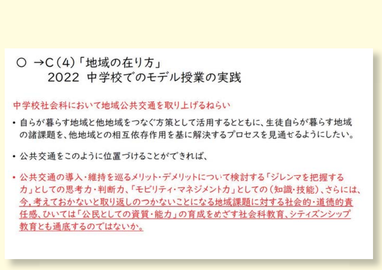
| | | |
|---|---|---|
| 低学年 | バスとの**親近感**を育む | バスに関する知識やバスに対するおもいをクラスで共有することを通じて、バスに対する親近感を育む、すなわち、「**バスと仲良くなる**」ことを目指す。 |
| 中学年 | **自分**の生活と**クルマ**との関わりを学ぶ | 過度なクルマ利用による問題等を通して、**自分とクルマとの関わり**を多面的に考えさせる。加えて、行動変容の動機づけを行い、より望ましい交通行動を自ら選択できる態度を育む。 |
| 高学年 | **社会**と**クルマ**との関わりを学ぶ | **社会とクルマとの関わり**を考えさせることを通じて、より望ましい交通行動を自ら選択できる態度を育む。さらに、社会の問題は1人では解決できなくても、**仕組みを変えていく**ことで解決できることに気づかせる。 |

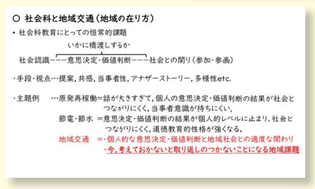
## 令和3年度以降の主な取組

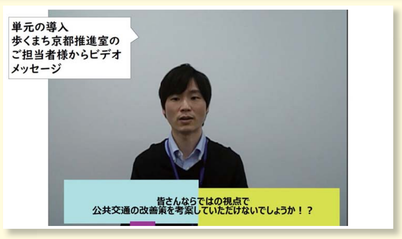
### 「歩くまち・京都」学習勉強会

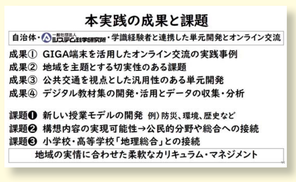
令和3年度は、勉強会に参加した教員のチームごとの授業構想に合わせて、交通課題や先進事例、交通施策事例等を掲載した教材用データ集を作成し、中学校の社会科の授業で活用いただけるよう授業モデルを3種類作成した。
令和4年度は、モデル校において授業を実施するとともに、作成した3種類の授業モデルを京都市立中学校教育研究会社会科部会で配布することにより「歩くまち・京都」学習勉強会の検討内容を周知した。
令和5年度は、これまでの成果を「日本社会科教育学会」と「全国社会科教育学会」で発表した。中学校の社会科においてモデル授業とアンケート調査を実施した。アンケートの結果によると「公共交通を積極的に利用したい」「京都市の公共交通を維持していかなければならないと思いますか」といった検証項目について、授業の実施によってポジティブな変化が確認された。
今後は、これまでの切り口とは異なる新たな授業モデルを作成するとともに、中学校等でのモデル授業を通じて得られたアンケート結果の分析・活用などに取り組み、活動の更なる拡充を図っていく。

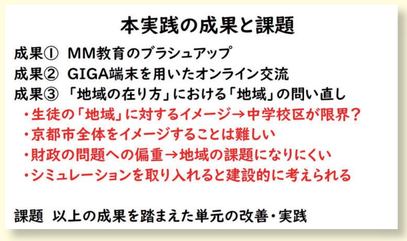





「歩くまち・京都」学習は、市民性、国民性の育成を企図した実践的な教育である「モビリティ・マネジメント教育」「シチズンシップ教育」である。各地域の学校教育現場において広がりつつあるものの、その取組の継続性や拡大が課題となっている。京都市では、引き続き、教育委員会や中学校教育研究会社会科部会など、関係機関と連携を深めるとともに、バス等の利用促進に取り組む地域団体と学校との連携を模索するなど、引き続きモビリティ・マネジメント教育に取り組む。